

## 第10回県政ひざづめ談議結果概要

- 実施日時：平成22年9月21日 16:10～
- 開催場所：富士吉田商工会議所
- 対話グループ：富士吉田商工会議所青年部

### ○司会

それでは大変お待たせいたしました。

知事が到着いたしましたので、早速、県政ひざづめ談議を始めさせていただきます。

まずはじめに知事からあいさつをいたします。

### ○知事

どうも皆さん、こんにちは。

それぞれの皆さん方、お忙しい中を今日はこうしてお集まりをいただきまして、ありがとうございました。

この県政ひざづめ談議というものは年に20回やることにしております、毎年やってきておるわけですが、県のいろいろな分野で活躍しておられる方々に集まっただいて、もうざっくばらんに日頃お考えになっていることについて、いろいろご意見を伺うという会議でありますので、今日はそんな趣旨で、日ごろお考えになっていること、何でも結構ですから、お話しただければありがたいと思います。

吉田というと、なかなか商業的にも、富士山はあるし、水はいいし、それからうどんがあるし、こういう繊維もあるということで、可能性があるところだと思っております。

特に最近、県は繊維関係をぜひ復活していきたいというように思っております、従来のOEMによる生産だけではなくて、それぞれの繊維業者さんが1社のブランドで製品を作って販売をしているということに対して、ご支援をしているところでもあります。

私もこの夏はクールビズをしないで、ずっとネクタイを締め続けていたんです。吉田の繊維業の売上が上がるようになるまでは、私はクールビズをやらないと、ネクタイを締め続けると言っているわけであります。

ぜひ、来年とはいわず、再来年あたりはネクタイを外せるように、一つ頑張っていたきたいものだと思っております。

今日は富士吉田商工会議所青年部の皆さま方にお集まりをいただいたわけでありませう。

商工会議所も大変活発に活動してくれておりました、会頭が若い堀内光一郎さんだということもあって、なかなか県として見ても、大変意欲的に活動していただいているというように思っております。

皆さん方のそういった商工会議所活動というようなものについて、今日は、あ

るいはまちづくり問題とか、あるいは産業・行政といったことについて、忌憚のないご意見を聞かせていただければありがたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○司会

それでは続きまして、本日、同席しております、県の担当者を紹介させていただきます。

商工団体の指導育成など担当しております、佐野商工企画課長です。

○商工企画課長

佐野です。よろしくお願いします。

○司会

続きまして、中小小売商店の振興ですとか商店街の整備の振興などを担当しております、赤池商業振興金融課長です。

○商業振興金融課長

赤池です。

よろしくお願いします。

○司会

それでは意見交換に入らせていただきますが、まずはこちらの青年部の会長さんより説明を。

○参加者

では簡単に、商工会議所青年部の紹介をさせていただきたいと思います。

異業種の若手経営者・後継者等で組織されて、24期になります。59名の部員からなっております。

事業経歴といたしましては、県民の日物産の第1回から、吉田のうどんの実営販売等、下刈りとか、あとシルクパウダーを用いた絹のうどん、こういったものの開発とか、オリジナルネクタイ、青年部がつけているネクタイの開発とか、いろいろ頑張っております。

近年、18年度より青年部が特に力を入れているのが、富士吉田産業祭りというものを、地域の活性化、そういうような目的で行っております。今年は特に高校生のボランティアを80名近くと、あと高校生のPRブースを設けたりとか、結構、子どもたちに夢を与えたりとか、私たち若手の経営者たちとのつながりの中で、若い者に元気になってもらいたいというように思いがあって、その産業祭りに特に力を入れています。

そして、また富士吉田市内のPRを実施することに、名所を活用して何とか市内外に富士吉田を知ってもらいたい、また観光客を中へ取り込みたいという思いで、そういった活動もしています。簡単ですが、以上です。

○知事

ここにあるものは、青年部が企画してつくっているわけですか。

○参加者

もう何年も前から・・・。

○知事

これはどういう販路で売っているんですか。

○参加者

販路的にはインターネットとか物産展なんかに……。当初は、やっぱり織物でした。そして、織物と吉田のうどんを合体させたら何ができるかと、着目したところでシルクパウダーというものがあると。それを吉田のうどんに練りこめな  
いかということで練りこんで作り出したのが、きれいな湧き水もありますし、それをいろいろかけてできたのが、シルクうどんという経緯があります。

○知事

これは、やっぱりのどごしがよくて、さらさらしていいわけですね。

これは、そこそこには売れているんですか。

○参加者

はい。おかげさまで物産展ではリピーターがおりますけれども。

○知事

この産業祭りというのは、道の駅のほうでやっているんですよね。

○参加者

そうです。

○知事

どんなようなことをやるんですか。

○参加者

市内中心に100社程度の企業さんに出展していただいて。

○知事

物産展みたいなものですね、そうすると。

○参加者

というよりは、もっと企業のPRとかなんかを、県のほうの物産展は個々というより、団体が多いじゃないですか。それよりももっとチャレンジブースとかじゃないですが、特に自分の会社のアピールとか、今、新製品のPRというのも、それを観光客を含めた市内外に発信できたらという。

○知事

お客さんは一般のお客さん。

例えばディーラーとか、そういうものを扱っているところとか。

○参加者

そこまで広げたいんですが、まだまだ。そこまでは力がなくて。

○知事

それでもやっぱり毎年少しずつお客さんが増えているという。

○参加者

大体、来場者は2万人前後は。

○参加者

2日間で、第5回目になったんですが、基本的には地元のこの北麓地域の住民の方々にチラシを配ったりとか、NHKに出演させていただいてPRしたりとか、

それで開催しますよということで、案内いたしまして、地元のお子さん連れの親子連れとか年寄りまで、結構いろいろな方が見えて、あと観光地ですから県外の方も通りながら寄っていただいたりとか、そんな形で約2日間で2万人ほど集客があります。

○知事

さて、県行政についての注文とか、そういうことがあってもいいんですが、何でもいいんですが、日ごろお考えになっていること、何かありますか。

○参加者

まず横内知事に、始めにこの地域を代表いたしまして、日ごろ富士吉田市はじめ北麓地域へのお力添えもいろいろ賜りまして、ありがとうございます。

まずお礼を、実例で4点ほど特に気づいたところをお礼申し上げたいと思います。

まず1点目に、小児初期医療救急センターを開設していただきまして、非常に助かっております。ありがとうございます。

2点目なんです、富士吉田の簡易インター、スマートインターの設置推進につきまして、知事さんの努力で設置が今、進められております。地域経済の活性化や渋滞緩和、また災害への対応等、計り知れない恩恵を受けることができます。この点、本当にありがとうございます。

3点目に、県費助成に伴います、郡内へのがん拠点病院の確保ということで、知事さんのご努力で富士北麓東部地域において、がん拠点病院の火が消えないことになりました。ありがとうございます。

まだ国中地域と医療格差、歴然としておりますので、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

最後に4点目なんです、国道138号線の4車線化と新倉トンネルと基盤整備の推進につきまして、富士北麓東部地域におきましては、国中地域との基盤整備格差、まだ歴然としております。横内知事になってから格差解消の兆しが見え始めておりますので、今後ともぜひこの北麓地域のことをよろしくお願いいたします。

勝手なお願いを突然しましたが、感謝しております。どうも、ありがとうございます。

○知事

それはそれとして何かありますか。

皆さん見ると、ご商売の関係が非常にみんな多様ですよ、多種多様で。繊維関係の方が多いたら、大してそうでもないですね。

不景気はもちろん不景気でお客さんも減ったりと思いますが、その中であつても、やっぱり何かチャンスがあるというのかな、可能性がある、そういうものは感じますか。この地域で。

観光客が吉田に寄ることはあまりないですかね。今も観光客が増えるといつてもね、中国人なんか街の中をうろうろするなんて、あまりないでしょう。

### ○参加者

中国人はないですけども、結構、外国人なんかもユースホテルを利用してますし、登山時期なんかは、白人の外人が結構いますよ。

富士登山に25万人なりの観光客が来ている中で、観光客を街中へ取り込み、お買い物をしてもらいたいというのが現状なんですけれども、なかなか難しいところですよ。

### ○知事

確かにね。5合目まで来ている観光客を入れたら、どのくらいになるんでしょうね。何百万人ですよ、人間の数としたら。それが少しでも、この吉田の街の中に来てくれるようになれば、それはもう大変なことなんですけど、なかなか。

さっきも、本町通り商店街のおかみさん会という女性のまちづくりグループの皆さんと話をしてきましたけれども、非常にレトロな町なんですけど、住んでいる自分たちにとっては、あまりレトロ、レトロなんて言ってもらいたくないと。しかし、よその人からすればとても魅力があるらしくて、今日も2人来ていましたけれども、1人は山口県の女性、そして1人は熊本県の若い女性が、この町は非常に面白いとってですね、この町に下宿を借りて住んでいて、いろいろな活動をしていたりとかするわけですよ。

だからそういう独特な魅力があるんでしょうね。レトロの街といわれているものでね。やっぱり外国人なんかが見れば面白いものがあるんだろうと思いますね。

どうですか、商売、不景気は不景気だけれども、何か明るい材料ありますか。

### ○参加者

明るい材料というか、富士北麓はスポーツが盛んなんだと。合宿にしてもイベントはかなり年間通してしているんで、スポーツを通しての地域振興を考えているんです。富士急なんかにしても、身近に世界レベルの選手がいるし、あと富士北麓方面では陸上の選手、朝原選手とかが合宿して、メダルを取ったとか、そういうメンバーも来たりしますんで、合宿とかスポーツの振興を進めていくには、施設整備などに関して、県の力をお借りしなければいけないんですが。

### ○知事

そうですね。北麓公園をフルに使ったらいいですよ。そういうことにね。

今ちょうどスバルラインのマイカー規制の期間はちょうど夏のいい時期なんですけれども、あれは駐車場に使われるものだから、もったいないですけどもね。今度は、来年3月に大きい駐車場ができますからね。コニファーフォレスト付近に大きな駐車場ができて、これが要するにスバルラインのマイカー規制の駐車場になるわけですよ、全部。

普段はそんなに駐車スペースはいらないわけですから、芝生の広い広場があって、そこでは例えばジャズフェスティバルとか、そういうものができるようにしたりとか、それから例えば今、富士北麓公園から出ている富士登山か何かのあるじゃないですか、自転車の。ああいうものがそこから出られるようにするとかね。

それから、あともう1つはヘリポートが2基あって、いざ災害とかそういうときには自衛隊の大型ヘリが止められるようになったりですね、そういうようなス

ペースがあるんですよ。

あそこは来年から使えますからね。富士北麓公園もフルにいろいろなスポーツの、夏場のスポーツに使えるようになりますよね。

○参加者

ですから、高地練習なんかにも適しているところですよ。活用できたらいいなど、ぜひよろしくお願いします。

○知事

富士吉田で何かスポーツのイベントというのはあまりないですね。山中とか河口湖はあるけれども。

○参加者

富士五湖に関してはそうですね。西湖でもマラソン大会があったり、北麓はいろいろとスポーツに適していると思います。

○知事

国中のほうに比べれば、こっちに来るとやっぱり何となく活気がありますよね。なんだかんだいっても観光客が大勢来ているからね。それはいいですよ。

吉田のうどんもなかなか、私は大好きで、ここへ来るとよく食べるんですが、なかなかB級グルメというわけにもいきにくいところがありますね。今からB級グルメに応募するというのもね。ちょっとね。

またうどんというのは、吉田のうどんといったときに、讃岐のうどんが私のところもなんて言い出したら困るし、B級じゃないんでしょうね、これはね。

○参加者

さっきのスポーツの話なんですが、北麓球場なんかは小さくできているから、公式の競技というのか、大きな大会、競技には採用されないと聞いたのですが。

○知事

野球場も公式野球ができるようになっていますよ。高校野球はできるよね。

○参加者

プロとかは。

○知事

プロはできないかもしれないですね。確かに。

○参加者

そういう何か、もう少し施設的に、せっかくお金をかけたんだったら、そういうように公式で使えるような施設になっていれば、もう少しお客さんもいい気持ちで使えるんじゃないかなと思ったんですが。

○知事

それは確かにありますね、そういうことはね。

○参加者

そういうものを今から手直しというのは・・・。

○知事

それだけのニーズがあればという話で。

○参加者

小瀬は立派だけれども、北麓はちょっとワンランク下で……。ヴァンフォーレさんとか、清水さんに試合してもらったりして、年に1回でも2回でもできたとすれば、少しでも経済効果はあるかなと思ったんです。そういうプロの試合ができるのであれば、お客さんが来るのかなと思って。

○参加者

この人はイベントがあったときに、ケータリングを。

○知事

食品移動販売ね。ケータリングですね。はいどうぞ。

○参加者

観光なんかでも、富士吉田はちょっとそこから一步遅れている部分があると思いますが、富士五湖があったり、当然、富士山があったりして、年間に何十万人とか、国内のお客さんだけでもそれぐらいはあるかと思うし、今おっしゃったように、中国人とかをはじめとするアジア、全世界から注目されて、観光客が来ていると思うんですよね、実際に。

私も商売をやっていて、取引先様がそういう観光地のホテルだとか飲食店だったりとか、食べるほうの仕事をさせてもらっているの、そういう場所に行くと、確かに夏場なんか特に駅周辺ですとか、ちょっとした繁華街なんかは、本当にアジアのパワーを感じているんですが、そのお客さんを引っ張ってくるだけの何か魅力というか、それは商品でも箱物でも何でもいいんですが、これというものがなくて、ちょっと押しが弱いといいますか、それが現状だと思うんです。

ですから、観光バスなんかも立ち寄っていただくような、何か魅力を持たせたものを、当然我々が主導で考えていかなければならないと思うんですよ。

ビジョンがまだ残念ながら私も含めてなんですが、はっきりちょっと見えてない部分がありまして、ちょっと歯車が空回りしているような状態でしたり、当然、私も勉強不足のところも、当然あると思うんですが、こういう異業種の若手のグループで私も参加させていただいて、何か一つ面白いものでも見い出せていければと、それに当然、我々でやっている部分では限界があると思うので、そのへんをバックアップしていただきたいと思うんですが。

まあ、例えば、お客さま方に富士吉田のうどんというものを、どこまで喜んでいただけるかどうかということになると、ちょっとレベルが、ワンクッション下なのかなとか。

○知事

ワンクッション下というか、やっぱりいいものを持っていますよね、吉田のうどんというのはね。

こしが強くて、これは独特の日本でも一番こしが強いですよ。これには、ほかにはないものがありますね。

○参加者

それもちょっとアピール下手といいますか、それもちょっと否めない。

○知事

これを好きな人はいるんじゃないですかね。

○参加者

市内には、もう60、70軒ぐらい。

日曜日なんか道を歩いていると、うどんマップを片手にした人にうどん屋を尋ねられることもあったりして、ものすごくいいことだと思うんですよ。

せっかくこの周辺に観光客の方が年間何十万人、何百万人来ていただいているところを、もうちょっと効率良くしていくのが、やっぱり富士吉田のある意味、使命というんですかね。せっかくこの環境にいるので、ちょっともったいない気はしています。

○知事

この中に製麺業をやっておられる方が何人かおられますが、吉田のうどんをおつくりになっているんですか。やっぱり普通のうどんのつくり方とはちょっと違いますか。

○参加者

そうですね。普通のうどんだとちょっと幅が細くなります。最近、あるスーパーの取締役の方と話をしましたが、どこのスーパーに行っても、パッケージが吉田のうどんとなっているのがちょっと問題化してはいるとっていました。

○知事

商標登録か何かしておけばよかったかもしれないけれども、そうもいかないし。じゃあつくろうと思えばつくれるということですね。

讃岐うどんとは、また独特のつくり方の違いがあるんでしょう、どこかに。

○参加者

まず皮の選定から始まりまして。1回、麺の組合のほうで吉田のうどんを甲府でつくってみようということで、吉田の使う使用量、同じ小麦粉、同じ水でつくったら、甲府のほうは讃岐っぽいうどんになったそうですね。

吉田のうどんはやっぱり吉田でつくることが・・・。

○知事

水ですね、やっぱり。水の質でしょう。スーパーへ出しているのは、お宅ぐらいのものですか。

○参加者

たぶんうちだけです。厳しい状況で。

○知事

そうですか。もう1人の方は。

○参加者

私のほうは山中湖で営業してまして、吉田のうどんではなく、普通の一般的な製麺の卸です。

○知事

そうですか。

みなさん何か県に対して、こういうふうにしてもらいたいとかありますか。女性の会員の方、いかがですか。



○参加者

私は飲食店を経営しています。飲食店といっても3種類の飲食店を営んでいます。女性が接客するラウンジ、居酒屋のほうと昼間の定食のほうをやらせていただいています。

昼間のほうでしたら、吉田のうどんの変わりバージョンということで、吉田のうどんとスパゲティをコラボとか、ラーメンと吉田のうどんの麺をコラボとかという形で、地道にやらせていただいています。

もう1つ、サンデーアイスという商品ですが、甲府の山交百貨店さんには去年から何回か出店させていただいて、揚げたてのパンにソフトクリームやジェラート、アイスを挟んで召し上がっていただくというのをやっています。何か変わったものを吉田から発信したいと思ひまして頑張っています。

月江寺西裏というところで商売させていただいているんですが、観光客の方がいらっしゃることが多いです。ヨーロッパの方、北欧のほうの方、黒人系の方がご飯を食べに来ていただいたりとかします。あと、観光バスの運転手さんとかが吉田の街のほうに来てくれるんですが、その方たちが、中国人のお客さんが非常に多いから富士吉田市内に連れて来たいけれど、富士吉田には何もないから、なんて言っていました。

それから、一般の市民の方は、何かがあったときに、どこに行けばいいかということが全く分からないと思うんですよ。私は商工会議所に入っているから、ほかの方たちよりも少しはみんなにいろいろ教えてもらえるけれども、そういうところを何とかしていただけたらとは思ひます。よろしくお願ひします。

○知事

それは行政相談所とか、そういうものがみんなあるんですけどもね。

○参加者

そこまでどうやってたどり着いたらいいのかわかるのか。

○知事

難しいですよ。市役所のどこにでも相談してやるしかないんですけども、なかなか敷居が高くてね。一般の方というのは行政に相談しにくいですよ。

それはそうと、まあ、そうやって一生懸命、3つのそれぞれ性格の違う飲食店をやって、工夫しておられて、大したものですよ。

この間、東京の新丸ビルで山梨県の商工会連合会が主催して、山梨の食材を使った料理を新丸ビルの9つか何かの店舗のシェフがみんな作って出していましたが、面白かったけれども、ほうとうの pasta をやっていたからね。あれはうまかったんだけど、吉田のうどんの pasta というのをやったらうまいと思うね。こしがいいしね。

いろいろ作っているんですか。

○参加者

当店ではうどんとカルボナーラを組み合わせて、提供しております。

○知事

あまり有名にはならない。

○参加者

提供の仕方が悪いんですが、今度、フルーツ公園で県民の日物産展、私も出店させていただきますので、そのときにうまく宣伝できたらと思います。

○知事

吉田のうどんのカルボナーラなんて面白い。  
お隣はいかがですか。

○参加者

私も飲食店をやらせていただいて、境川村の加藤農場さんから、甲州地鶏を直に入れさせていただいて、それで焼肉をやらせていただいています。

実は住まいは甲府のほうにあるんですが、こっちが実家なので、今はこっちで商売しているんです。甲府のほうにもう1店舗、お店を出そうかなと探しているんですが、もともと甲府に住んでいたの、甲府のマーケットと吉田のマーケットの違いというものを、自分でもやっぱり明確に分かっていて、さっき知事がおっしゃるように、吉田のマーケットというのは、観光客が多い。甲府には観光客というのは少ないように思います。

甲府だと今、例えば駅前開発とか知事のほうでやっていただいて、ちょうちん横丁とか、物件を見に行っても取れないんですよ。

ちょうちん横丁がよくなりました、どこがよくなりましたというのが甲府なんかにはあるんですが、吉田ってどこがそういう商業施設なのかと。なかなかその商業施設というのが、1団体ではつくりにくいと。だからといって、それを県政にお願いするべきかどうかというのは、難しいところだと思いますが、そういったものができてくると、やっぱり人は集まりやすくなる。

吉田のバイパス通りには県外からフランチャイズのお店がものすごいできてきて、自分たちがあそこをやっていると、何でこんなに県外の、他県に税金を落とすところが全部いいところを占めてしまって、もっと実は自分たちの市とか県に税金を落とすような企業が、ああいうところにお店をできるような、そのインフラ整備とか、地域を吉田もつくっていければ、本当は吉田ももっと栄えるのではないかと。

それをよく言われるのは、西裏でというように言われるんですが、やっぱり西裏の土地開発というのは、ものすごい難しいと思うんです。古い町で、知事がおっしゃられたように、レトロな町なので、壊すわけにもいかない。

そういったときに、なかなか私も別に甲府に行くから、吉田を捨てるわけでもなんでもなく、やっぱり1店舗では難しいものが出てくるので、そうすると、できれば吉田の中でも展開をしていきたいというものはあるんですが・・・。

○知事

西裏あたりでは、新しい店舗を出すのは、なかなか難しいですか。

○参加者

キャパの問題とか、やっぱりお店の広さですよ。今、甲府なんかでもそんな

んですが、10坪ぐらいの店だったら開いていますというんですが、10坪の店ってやっぱり夫婦でやっているとか、1人でやっているお店のキャパなんですね。

甲府の不動産屋さんと話をしていても、やっぱり20坪から40坪の店舗って空きがないと。では、吉田で続ければ、その大きさがほしいとなると、なかなか西裏にはない。やっぱり古くからの人たちもいるので、そこを町おこししようとするときには、並みたいの努力ではないと思うので、自分1人が頑張ればいいだけではないと思いますし。

○知事

この地域は結構観光客というか、要するに別荘客、別荘客向けのかなり高級なレストランとか、そういう洒落た店も結構あることはあるんですよね。

面白いところはあるんだけどね。

しかし街中にいくつか拠点があって、お客さんが自然に集まってくるような、そういうちょっとにぎやかなところというのは、ほしいことはほしいですよ。

○参加者

県政にお願いすることではないと思いますが、そういう場所があって、そこにお店をつくれたらいいなという願望です。

○知事

さて、隣はどうですか。

○参加者

私の商売は飲料関係をやっています、今年はおかげさまでお天気もよく。

○知事

ミネラルウォーターですか。

○参加者

ミネラルウォーターもやりますけれども、そっちのほうは細々と。今やっぱり富士山ってすごく注目されていて、いろいろ問い合わせはすごく多いですが、いろいろそういう販売ルート、ちょっとそこらとか、ちょっと苦労しているという面があります。

地域の状況では、やっぱり吉田の人口が年々減っているという問題もありまして、市内の活性化というか、何か元気がなくなっているなというのがすごい感じられますね。中心街がどうしてもさびれちゃうから、若い人がどんどん外へ出て行ってしまふ。

○知事

富士河口湖町なんかは、随分人口が増えているんですよね。

○参加者

河口湖はそうですね。

○知事

今度、大型のショッピングセンターができる、大型といっても、そんなに大きくないけれども。

○参加者

吉田から流れている部分があるんです。だから、そのへんがちょっと吉田は頑

張ってくれないと、ここで商売している人間としてはちょっと厳しいです。

○知事

どうですか。

○参加者

自分は繊維の仕事をしているんですが、ネクタイの加工場です。

○知事

これをつくって。

○参加者

仕事が非常になくて、ほとんど中国の商品が入って、それで機屋さんも値段が通らない。このままだともちろんじり貧でもう先が見えませんか。

だから、傾向と対策として、先ほど知事が傾向としたら今、繊維に力を入れていると。個々のブランド、私たち、実は加工場というのは賃金仕事なんです。反物一反メーター何円という。それが例えば個人のブランド化で、個々がブランドをつくって、数本売ればお金は入りますけれども、私たちはそれでは食っていけないんです。

1本のネクタイつくるのに、10業者ぐらい実は細かくいるんです。糸屋さんから染屋さん、成型屋さん、つりこみ屋さん、型屋さん、加工場、縫製工場、商品になると。そのぐらいの分業で成り立っているものですから、1つの機屋さんがそれこそ本当に全部の単価を上げていかないと、厳しいと。

もう機を織っている人も60、70のおじさん、お婆さん、若い世代はいないですね。それを、例えば観光とか、それを実際にハコモノでつくって、そこに観光客が来て、中国人が例えば買い物に来ますよね、観光で。河口湖で「愛」というTシャツがあると。買おうと思ったら、メイドインチャイナだから買わないとか、そういう話もよく聞くんですが、そういうものも日本で実際につくられたのかなどうなのかなとか、いろいろ考えてはいるんですが、やっぱりその仕組み自体を根底から変えていかないと、もう織物を守れないと思うんです。

機を織る人はいない。分業で例えばつぎ込んで、1本、1本、針の穴に4万本、糸を入れていく職人がいるんですが、その職人がもう吉田で2社ぐらいしかないですね。それが終わったらもう織れないですよ、機屋さん自身が。その機屋さんに携わった人は中国、またはベトナムに指導をしに行っているんです。

でも国内でそれがありません。だから、根底から変えていかなければちょっと難しいんじゃないかなと。

県外に営業に行くと驚くことが、富士山って静岡県だと思われているんですね。山梨県って山形だと思っているんですね。そんなニュアンスなので、もう少しやっぱり山梨を、富士急は分かるんですが、山梨にあるものだとは思わないから、そんな感じなので、関西に行くと特にそうなので、京都あたりで修学旅行は河口湖へ来るんですね。富士北麓の。来ているのにもかかわらず、山梨って山形と間違えている。そのぐらい認知度が。

山梨県にはいろいろなものがいっぱいあるわけじゃないですか。それをうまくアピールする。本当につくることができても、PRができない、売り方が分から

ない、どういうふうにしたらいいか分からないでは・・・。

実際、日本一の産地でネクタイをつくっていますとか、そのアピールの仕方、その販売の仕方、そういうものをマーケット的にもっと勉強していかなければ、本当にいけないんじゃないかなと。そういうチラシをいただいたので、機屋さんを集めて、こういう随分、勉強会を開いて、個々でちょっと難しいと思うんですが、本当に一つの会社組織化していかないと、富士吉田の織物、日本の織物を守るために。

○知事

西陣の人がそういってましたね。西陣の、ある工程ですね、ある部分ですね。それをやれる職人さんがいるんですが、本当にいつまで持つかわからないと。

これは山梨だけではなくて、京都だってそうなんであって、今、ベトナムのほうへ持っていかなければ、西陣はできなくなってしまっていますからね。その職人さんがいなくなっているんですよ。これはもう大変なことですよ。

まあ、それはそれとして、しかしこういうネクタイなんかも日本の国内の4割を織っているということになっているんですか、そのとおりのんですが、非常に物はいいんですよ。物はいいけれども、デザインとかがね。

○参加者

京都の専門の人が絵を描いて、その織ることだったらできるんです。でも、織るだけができるのであれば、中国でもできる、ベトナムでもできると。

○知事

だけど、これだけのいいものはなかなかできないけれども、しかしそれでも一応のものではできるでしょうね。

だからやっぱりデザインも含めて、何かやっぱり付加価値を付けたりしなければいけませんね。

今それで商工会議所が一生懸命、織協の皆さんなんか、東京造形大学とか、そういうところの若い人たちと、デザイナーと提携したりとか、いろいろなことをやっていますけれどもね。物がいいから高いんですよ。

例えば傘なんかにしても、1本1万円とか2万円するじゃないですか。あれはすごくよく見ていくと、非常に素晴らしいものでね、だけどその良さというものが分かるかどうか、消費者に。

ネクタイも物はいいんだけど、人によっては、ちょっと重いから嫌だとか、そういうことを言う人がいるしね。それだけ織りがいいからなんですが、それが分からないんですよ、要はね。

○参加者

僕はサンプルであるんですが、自分で実際に締めているけれども、実は・・・。

触ってもらえば分かりますが、実はこれが本物なんです。この生地が本当は表にもあるんですが、これは製品加工してあるんです。

○知事

裏のこういうものを、こういうふうに加工作るの。

○参加者

そうです。

無地で売れなかったものをそのままこういうふうに加工作ると。それで生き残っていかないと、地元の機屋さんの仕事ができなくなってしまつて。

○知事

繊維はどこの範疇も厳しいけれども、しかしこの産地というものは残していかないとね。もったいないですよ。

あまり繊維関係の方はおられないですね。

ではどうですか。

○参加者

青年部の活動として、富士吉田と甲府の商工会議所にはそれぞれ青年部があるんですが、今まで交流がちょっと少なかったんです。全国大会とか関東ブロックとか行くんですが、もっとよくすると、県の代表として参加ができる。今、甲府さんと交流を始めているんですが、一緒になって参会するまでにはなっていない。できれば、全国のほうにも商工会議所の青年部は組織がありますが、そこへ堂々と手を上げて、こういうことをやりたいというような提案もできるんじゃないかと。

私たちはもう49ですから、来年あたり追い出されるんですが、若い連中にはすごいパワーがありますから、そういうものを夢みて今、動き始めています。

○知事

一緒に何かやればあれですか、全国の商工会議所の青年部の何かイベントとか、そういうものがあるんですか。

○参加者

例とすれば、大分のお祭りとかなんかも商工会議所の青年部がかかわって、ものすごい大きいイベントがあつたりとか、そういうようなことと、あと全商連のほうから補助もきたりする。ただ、我々は単会ですから、なかなかそういうものがもらえないんです。吉田と甲府が連携して、県単位で申請すれば、そういった支援が受けられるんです。

○知事

分かりました。いかがですか。

○参加者

私は住まいが富士吉田でございまして、鳴沢村のほうで事業をしています。職種としましては、高級な化粧箱を製造しています。

山梨県内でのお客さんは、正直言うと今1軒しかございません。甲府のほうにあります上原さんと取り引きをしているんです。高級化粧箱ということもありまして、なかなか買い切れないということが、箱単価が非常に高いということもありまして、ここ近年、どうしても中国、日本に進出しています会社が国内で約6社ほど、その6社が中国で生産をして、逆に日本で売っているという実態があるんですが、国内でしかできないものを、ある程度構築しているような状況ですけども、東京のほうで事業を頑張っています。

○知事

紙器、紙の製造、紙器なんですね、化粧箱というのは。割と軽いですよね。

○参加者

県内では35社。一番だった時期なんですけど、ここ5年ぐらいで廃業されている会社も5社ほどありまして、大体、大規模でやられるのが3社ぐらい。あとは本当に家族ぐるみでやっているような会社です。

○知事

例えばどのようなものをやったりするんですか。

○参加者

東京のお菓子なんですけど。

○知事

お菓子を入れたりとかね。

浅草あたりにあるちょっと日本風のお菓子とか、ああいうものを入れるような、ありますね。ああいうたぐいの化粧箱、なるほどね。

ちょっと日本風のものでしょうかね、きっとね。

○参加者

洋風もつくれますし和風も。日本の伝統文化でもあります、和ダンスとかも・・・。

○知事

鳴沢で昔からやっているんですか。

○参加者

以前は富士吉田市でやってはいたんですが、音が非常にうるさいということもあって、鳴沢村のほうで商売をしているような状況です。

○知事

こういう商売も山梨にもあるんですね。

山梨では孤軍奮闘ですけども、一つ頑張ってください。

○参加者

現在、ディズニーランドとかに営業に行ったりとかしています。

○知事

それはぜひ頑張ってくださいですね。

はい、どうぞ。

○参加者

私は、地場産品を使ったお菓子の開発をしています。仕事の的には卸し、地域の農産物を中心に使っています。農業をちょっとやっているんですが、最近使っているのがハナマメというものです。ハナマメは、何年か前には県からの支援が少しあったりしましたが、今はちょっとなくなってしましまして、またできましたらぜひご配慮を。

このハナマメを使ってお菓子にしたり、豆として販売したり、今、料亭さんがおせち料理に使ってくれますね。あとホテルに頼みまして・・・。

○知事

増富でたくさんつくっているじゃないですか。

○参加者

富士吉田市の農政課の方に紹介されて、そちらのほうの方と一緒にちょっと連絡を取りながら、今やらせていただいています、清月さん、そこでハナマメを使ってペースト上にしたものをお菓子の中に入れて売っています、ちょっと励みになったりしています。

話は変わりますが、甲府のほうにしか県立病院がない、もし郡内にチャンスがあれば、県立病院がもう一つあるといいかなという感じもします。

○知事

鳴沢村で今、ブルーベリーとか、あそこに中山間地域整備事業というものをやっています、鳴沢村というのは結構、農業を一生懸命やる人が多くて、なかなかいい農業者が多いと有名ですね。あそこはブルーベリーとか、いろいろなものをやっていますよね。あそこはハナマメを始めたんですかね。

○参加者

やっているところもあります。かなり広域に話をしています、というのはある地域で集中的にやってしまいますと、災害を受けた場合に商業ベースだとストップになってしまいますので、なるべく広範囲で、今年はおかげさまで夏が暑くて全滅してしまいました。

○知事

全滅してしまっただんですか、本当ですか。気温が高すぎた。

○参加者

そうですね。最近の夏に比べると、全然駄目ですね。増富のほうもたぶん全滅ですね。

○知事

そうですね。ハナマメというのは、本当に寒冷地じゃなければ駄目なんですね。難しいものですね、これは。

○参加者

農業関係に関する支援について東部農務事務所のほうに聞いても、なかなか支援策がないのできびしいという話をされましたが、もし何かあればよろしく願います。

○知事

圃場整備事業とか、中山間事業とか、ああいうものは予算的にはかなりあるんですね。だけど特定の作物を栽培することについての補助というのは、そういうものは少ないですよ。

○参加者

農業関係に関する、県の予算の考え方というのは、どのくらいを考えているんですかね。

○知事

非常に重視していますから、あるほうだと思いますね。あるんですけども、



やっぱりしかし県がいろいろな支援をするとなると、基盤整備的なね、圃場を整備したりとか、あるいは農業の、要するに水路を良くしたりとか、そういうインフラですね。インフラが中心になるんですね。

あとはやっぱり何をどうつくるかというようなことについては、技術指導みたいなことをやるのであって、あとは農家の責任においてつくってってもらいたい。どういうものをつくれとって、補助金を出すとか、そういうことはあまりしませんね。

○参加者

農産物をつくっても、売り先がないとかという形で、商業ベースのインフラというんですかね、そのへんをご提案をさせてもらって、そっちのほうが全然、仕掛けをしてもなかなか難しい部分があるので。

○知事

そうですね。今、農業も販路開拓ということを考えなければ駄目ですね。道の駅あたりに売ったりとか、そういうようなことをやっていますけれども。

○参加者

そうですね。ちょっと現状では道の駅だけですと、ほとんど食べていけるほどの……。また、そういう事業の中でお金が出るところがありましたらまた。

○知事

ハナマメを大々的にやりたいんですか。

○参加者

そうですね。今、私のところでも14、15人ぐらいと、近隣のおじさんたちと。

○知事

どのへんでやっているんですか、吉田ですか。

○参加者

私は実験で富士吉田、標高の問題があるので、農政課の方に紹介してもらって、土地を借りていまして。

○知事

どのへんに。

○参加者

富士吉田市役所と同じ場所で、そこに1反歩借りて、もうちょっと上のほうに、富士山側にもう1反歩、大体2反歩ぐらい、私はやっています。

県のホームページなんかもちょうと見させてもらって、以前ちょうとご相談させてもらったら、対応が早かったんで、それはすごいなと思いました。

○知事

農政事務所あたりに相談をすればね、対応はすぐしますよ。

○参加者

対応は早かったですよ。

○知事

病院は、富士吉田市立病院と、それから山梨赤十字病院があるから、この2つ

を併せれば、大体のものはカバーできるんじゃないかなという感じはしますよね。さらにということになる、なかなか大変だなという感じがしますね。

やっぱりこの2つを充実するということでしょうね。富士吉田は放射線機器を入れてがん拠点病院になったので、だからがん関係の診療機能の強化をするということですね。それから救急ですね、高度救急ですね。

それから山梨赤十字病院はいわゆるお産ですね。分娩ですね、出産ですね。これも機能強化するというので、ここはベッド数も今30に増やしたのかな、お医者さんも4人かな。この地域での女性は、出産のときにベッドがなくて困るかということはないですよ。

さらに、NICUといって、難しい出産、非常に危険な、そういうものについての集中治療装置みたいなものをつくったり、それからもう1つ山梨赤十字病院はこの心臓疾患の診察機能を強化したりとか、そういうことをやろうとしているんですよ。

そういうことで充実していくということになるんだろうと思いますね。県立病院というのなかなかね。

#### ○参加者

先ほど言いました、製麺所をしている……。

うちは主に卸しをやっていますが、今の時期を過ぎてしまうと、かなり落ち込む形になってしまいます。

そんなことで私10年ぐらいやってきたんですが、品物の数を多く出して、安く売るんじゃなくて、自分のうちのキャパで、できる範囲でいい物をつくろうじゃないかというふうにしています。

飲食店なんかと契約して、そこのお店の麺をつくるという形でつくらせてもらっているんですが、最終的な目標は私は小売をしたいんですね。小売が今一番いいですよ。ブランド化をして、吉田のうどんじゃないですけども、独自の麺をつくって、お客さまに売りまして、頑張っていきたいなという気持ちでいます。

#### ○知事

製麺屋さんが讃岐うどんなんかで小売をやっているところがありますよね、かなり大々的にね。

どうですか。

#### ○参加者

私は事務機器、OA機器、コンピューターを販売してしまったり、あとメンテナンスとか、最近またホームページをつくったりとか、たまたま青年部のホームページとか、そういう話があってやらせてもらっているんですが、リーマンショック以降、この商売の相手が本当に中小企業の皆さんですので、本当はかなり落ち込んできて、ようやく少し回復の兆しが見えたかなというように少し感じるころなんです。商売的には対応を早く、小さい中小企業の皆さんが、困っている方にすぐ対応して、そういうところでカバーして商売しているところです。

あと、自分は今、河口湖に住んでいるんですが、本当に中国人の観光客が多い

んですよ。ショッピングセンターベルですとか、あのへんなんかは大型の駐車場がありますので、観光バスでみんな乗り付けて、そのへんで買い物をして、ホテルに戻るといような、そういうような形なんです。

観光の絡みで言うと、今年の夏ちょっと飛騨高山に旅行に行ってきましたが、本物の観光地だなと、本当に肌で感じました。例えば高山神社ですとか、休憩所とか、実はトイレがきれいなんですよ。トイレの中にエアコンが入っていたり、すぐ近くにお土産屋さんがあったりとか、所々そういう本当に観光施設で楽しめる場所で、今回は夏に行ったんですが、次回は冬もまた今度、行ってみたいという気にもなりますよね。

だから河口湖なんかも何かトイレなんかをきれいにするのも、1つの手じゃないかなと。今、結構、富士山なんかトイレの問題がかなり問題になっているかと思いますが、富士山もそうなんですが、河口湖の所々にそういうきれいなトイレなんかがあるのも、観光客がリピートする1つの要素になるのかなという感じがします。

#### ○知事

高山というところは、本当に観光で生きていかなければいけないという、そういう一種の根性みたいなものがあって、あれは大したものですね。

本当に素晴らしいですね。もう行政も市民も挙げて、そういう考え方で動いていますからね。あれは立派なものですよ。素晴らしい、あれは本物ですよ、確かに。

ファナックなんかも非常に良くなって、本当にファナックというのは、山梨県の税収の1割を占めているものだから、もうファナックが風邪を引けば、こっちは肺炎になるぐらいですね。本当にV字型でね、20年9月のリーマンショック、そのあとガターンと落ちこましてね、そしてまたグリーンと上がってですね、今年に入ってかな、だから今年の4月から、ダーッと上がり出しましたね。すごい勢いですよね。

大体お話しいただいたでしょうかね。

#### ○参加者

私、税理士をしております、知事にはいつも税理士会を通していろいろとありがとうございます。

ちょっと仕事とは離れまして、富士吉田の、先ほどちょっと話があったんですが、人口がどんどん減りまして、たぶん20年ぐらい前は5万6千人いたのが、今は5万2千人、住民台帳上ですね。たぶん今年、国勢調査があるので、実際に5万人維持できるのかなと、ちょっと心配しながら、どんどん流出が続いていると思います。

行政とか、経営者も当然、スケールメリットを求めて結構、合併したりしてまして、このへんの地域でなかなか合併が進まないということで、富士吉田も昔は甲府に次ぐ2位の人口で、ちょっとそれも少し重荷に思っていたんですが、それが笛吹市、南アルプス市、甲斐市に抜かれて今5位で、ちょっと人口が少ないと言うと、何かイメージがちょっと弱々しく感じる場所があります。平成の大

合併で27市町村になり、今はもうブームは去っているんですが、今後この富士北麓地域、合併が遅れていますけれども、その点について、知事の今のご見解と、その先にある我々、5年後、10年後のビジョンを考えた場合、どうしても行政の枠組みというものも無視はできないので、例えば県単位から道州制に移ることになることもあるんですが、簡単で結構ですので、市町村合併と道州制の方向を知事のご見解を教えてくださいたいと思います。

#### ○知事

市町村合併、平成の大合併というのは終わってしまったんですが、中途半端な形の中で今27市町村になっています。ちゃんとした市になったところもありますけれども、しかしまだ道志村だとか、丹波山村とか小菅村とか、小さい村が残っていますからね。

やっぱり徹底をするのであれば、そういうところもやっぱりもう1回合併をしていかないと、なかなか県から行政事務を下ろすといっても、例えば笛吹市とか、そういうところには下ろせませけれども、例えば丹波山村に下ろせといっても、なかなか下ろしにくいところもあつたりしますから、ちょっとそういう意味で平成の大合併というのは、中途半端に終わっているところがあるんですよ。

しかし、そういう中であって、今回は駄目でしたけれども、吉田を中心として、この富士五湖地域が1つの合併になっていくと、これは必然の方向だと思いますよね。

ただ、やっぱりここが非常に政治的に難しいものが、それだけが……。向こうのほうの人たちは、大体、吉田なんかと合併すると、あんな難しいところと合併したってとか、こっちのほうも同じようなことを言っている人がいて、難しいんですよ。

だけどやっぱりそれはもう将来の必然の方向としてそうなるだろうと思いますね。そのためにやっぱり中心が何といっても富士吉田市ですから、富士吉田市の行政がしっかりして、周りをリードして引っ張っていくようにならないといけませんね。

だんだん、例えば観光圏なんて指定を受けて、富士吉田が中心になって、一緒になって観光振興をやらうとしていますよね。だんだんそうやって来るんじゃないですかね。いい方向になりつつあるんじゃないかという気はしますよね。ただ、合併特例法があることはあるんですが、いわゆるメリットが、例えば合併特例債だとかメリットが全く今なくなっていますから、合併はね。合併しても何か特別に国が支援をしてくれるということはないんですよ。その点が合併しにくくなっているということはあるんですがね。

しかし、いつかの段階でやっぱり合併をしていくという方向にならなければいけないというように思いますね。

それから道州制ですけれども、長い方向として私も道州制であるべきだと思っているんですが、地域主権というようなことをいって、国の行政事務をできるだけ都道府県に下ろしてくるということ、一生懸命、国のほうもやらうとしてくれて、それはそれで高く評価するんですが、まだしかしやっぱり国の事務を下ろ

してくるとなると、やっぱり都道府県というところとちょっと小さすぎるんですよ。小さすぎて、もうちょっと大きくないと、国の事務を都道府県に下ろすということは、なかなか難しい、限界があるんですよ。

だから、それにはやっぱり道州制という形にして、全国を10ぐらいの道州にして、内政的な権限は全部そこに任せて、互いに善政競争と、良い共生の競争をしていくことが大事だと思いますよね。長い意味ではそうなっていくんだけど、しかし道州制になると難しいのは、その過程で例えば内政の事務は全部、道州に譲って、国は外交と防衛というような、基本的な国の国家的な事務をやるんだと、こうなると、では衆議院と参議院と2ついるのかとかですね、参議院なんかいないじゃないかなんていう議論が出てきますね。

そうなるとこれは憲法を改正しなければならなくなって、なかなか道州制というのは、ただ都道府県が合併して道州をつくって国の事務を下ろせばそれでいいというわけではなくて、国のあり方そのものにかかわってくるから、非常に難しい面がありますよね。

だからそこがあるから、道州制をやろうと、国会で時々出てくる、自民党もそういつている、民主党もそういつているんですが、いざ道州制の議論を本格的に議論していくなんて、あらゆる国のあり方にかかわってくるもので難しくなってきた、しかもそうこうしているうちに、政権が代わってしまって、それもみんな流れてしまったんですよ。

しかし、これから安定的なしっかりした政権ができれば、やっぱり道州制の議論というものは必ず出てきて、長い目で方向としては実現してくる。しかし、ここ5、6年はちょっと無理ですね。10年、場合によっては20年、20年ぐらいかかるかもしれませんね。

道州制になったときに山梨県はどうするかと。長野・静岡とくっ付いたらいいじゃないかという考えもあるけれども、やっぱり基本的には東京にくっ付けるしかないじゃないかと、こう思っているわけですが、何としても東京にくっ付いていくと。そして首都圏の癒しの場みたいな、そういうところにしていくということなんでしょうね。

最後に部長さん、何かありますか。

#### ○参加者

今日はいろいろこの席に呼んでいただきまして、ありがとうございました。

この青年部の活動ですが、とりあえず異業種で自分たちのメリットを考えずに、地域活性化ですね。地元のためにという形でいろいろ努力していただいて、今年から関東ブロックの出向とか行ってもらったりしまして、県外へ出て行動もしていただいて、そのときに例えば、当分無理だと思いますが、まだ先の話で、全国大会とかとなりますと、5千人規模の社長連中といいますか、経営者たちが集まって、地域にお金を落としていくようなこともあります。ですから今、富士吉田のこの単会だけなんですけど、今の力ですと、まだそこまでできないんですが、小さいものでサッカー大会とか、そういうものを、1千人規模なんですけど、そういうものを引っ張ってきて、地域を活性化させていければいいかなという考えもあります

ので、そのときにちょっとやっぱりキャパ的な問題で県政にもいろいろお手伝いをしていただかなければならないようなものも、企画段階で出てくると思いますので、そういうときにはぜひまた協力のほどをよろしくお願いします。

○知事

コンベンションをもっと誘致したらいいと思いますね。富士吉田市のコンベンションシティーなんていって、コンベンションブームも一時期あったけれども、今はなくなってしまったんですか。

大いに誘致したらいいと思いますよね。結構、コンベンションができる、大きいものはできませんけれども、300人、500人ぐらいのコンベンションはできる会場というのはいくつもあるわけですね。大体それはかなり空いているということですから、大いにコンベンションを誘致したほうがいいんじゃないかという気がしますよね。

併せて、マイス（MICE）なんていって、コンベンションということではないんだけど、Mはミーティング。Iはインセンティブ、インセンティブ旅行ですね。中国で1万人の旅行をある会社が企画して、結局駄目になりましたけれども、ああいうやつですよ。

CはコンベンションのC。Eはエジュケーション、教育旅行ですね。そういうような通常の観光旅行とは違う、ちょっとそういう旅行みたいなものを誘致するというようなことも、十分あり得ることですよ。

それを頑張ってもらいたいんですが、富士吉田市もいろいろやらなければいけないものだから、なかなかそこまでいかないんでしょうが、大事なことでね。ぜひ一つ、商工会議所の青年部あたりでそういうことを考えて、推進してくればありがたいですがね。

○司会

最後に知事からまとめを。

○知事

今日はそれぞれみんな有志の皆さんの集まりで、それぞれの皆さんの仕事の悩みを聞かせていただいて、しかし皆さん方、それぞれのご商売を本当に悪戦苦闘しながら頑張っておられると。

しかし、そういう中でもそれぞれに方向性を自分なりに持って、一生懸命やっておられるということで、大変心強く思ったところです。

地域を良くするための地域づくりも、大いに努力をしていただくと同時に、何といってもやっぱり自分のご商売が前提ですから、ぜひ一つ、これからの時代というのは、去年と同じことをやっていたら駄目なんです。人口が減っていく、高齢化していくわけですから、需要は減っていく、伸びないわけですからね。昔のように、高度成長のときは口を開けて待っていれば、来るわけですよ、どんどんね。今はそういうことはないですから、もう悪戦苦闘しながら、七転八倒しながら、何か新しいことを常に考えて、何か新しいことを常にやっていかないと、じり貧になっていきますよね。

だからそれぞれの皆さん、いろいろに工夫をしておられるのは大変感心したわ

けですが、これからもぜひご自身のご商売を頑張ってくださいと思います。

併せてこの地域の発展のためにも県としても頑張りますから、これからもご協力をいただきたいと思います。

今日はどうもありがとうございました。

○司会

それでは以上をもちまして、ひざづめ談議を閉じさせていただきます。